

## 新建築に関する5原則

1927年にル・コルビュジェによって表明された理論で、近代建築運動\*の主原則になっています。

### ピロティ

ピロティの使用によって、ル・コルビュジェは、「空中に浮かぶボックス」建築を実現しました。土台部分は周囲の草に溶け込んでいます。

### 屋上庭園

平らな屋根部を利用してテラスが設けられ、植物を植えることもできます。その水平ラインによって、建物が空からくっきりと際立つようになっています。

### 自由な設計

鉄筋コンクリートで構築されることで、家は支え壁や区切り壁から開放されました。柱は床を支えるために用いられ、部屋の間取りは完全に自由になりました。空間を仕切るには軽い間仕切りで十分です。

### 自由なファサード

ファサードは母体建物から独立し、ピロティ上に自由に配置されます。その構成は、内側からの景観によって決定されます。

### 横長の連続窓

ファサードは母体でないために、横長の窓によって広く開口部を取ることができます。こうして、近代建築運動にとって重要な特性である、光と透明度がもたらされます。

\*裏面に解説あり

## 用語集

**シラム(CIAM)**：1928年、スイスのラ・サラで建築家と建築評論家によって設立された近代建築国際会議。都市計画および建築を新たに捉えなおすことを目的としていた

**長椅子**：休息のための寝椅子

**メゾン・ミニマム・ユニファミリアル**：1929年のシラム国際会議で、ル・コルビュジェとこのピエール・ジャンヌレによって発表された建築モデル

**近代建築運動**：二つの大戦間に生まれた運動で、ラインの簡素さと機能主義を推奨した

**リノリウム**：亜麻仁油とゴムをベースとしたコーティングで床に流して用いた

## 役に立つ情報

見学に要する平均時間：1時間

説明ガイド付き見学

身体の不自由な方向への特別見学あり



国立モニュメントセンターは、フランスのモニュメントに関するガイドシリーズを翻訳版で出版しています。文化・歴史遺産バージョンは書店ブティックにて販売しています。

Centre des monuments nationaux  
Villa Savoye  
82 rue de Villiers  
78300 Poissy  
tél. 01 39 65 01 06  
fax 01 39 65 19 33

[www.monuments-nationaux.fr](http://www.monuments-nationaux.fr)

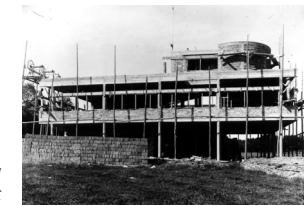


# サヴォア邸

## 近代性の表れ

## 長年に渡る探究の成果

スイス出身のシャルル=エドゥアール・ジャンヌレ(1887~1965)、別名ル・コルビュジェは、1917



建設中  
1930年

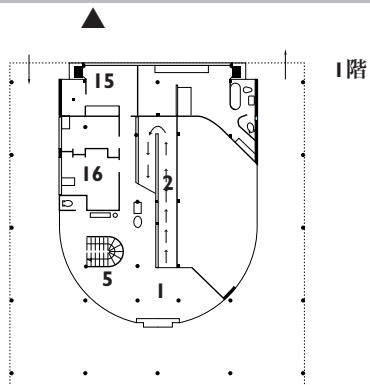
年にパリに落ち着き、建築の伝統的形式主義と絶縁します。彼は、都市計画と建築に関する画期的な概念を、「エスプリ・ヌーボー」(1920

年にル・コルビュジェが画家のアメデ・オザンファン、ポール・デルメとともに創刊)誌上や、1928年に創設されたシラム(近代建築国際会議)\*において発表します。1928年から1931年に建築されたこの邸宅は、サヴォア家の週末用の別荘で「明るい時間」と名づけられました。この「空中に浮かぶボックス」は、ル・コルビュジェの建築形式の探求の成果であり、新建築における5つの原則を実現したものです。

## 保護

戦時下では、ドイツ軍、次いで連合軍に占領され、多大な損害を受けました。1958年、ポワシー市が、跡地に高校を建てるためにサヴォア家から土地を買取りますが、1962年に国に売却されています。この邸宅の建築物としての重要性が認識され、1963年から1997年にかけて修復が行われました。この建物は、建築者ル・コルビュジェの存命中に歴史建造物に認定されています。

\*裏面に解説あり



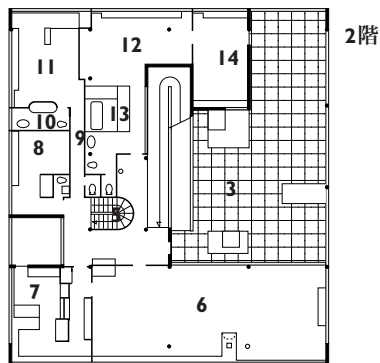
## 「建築的プロムナード」

「建築的プロムナード」は、ル・コルビュジェによって提案・実現されたコンセプトで、内側と外側の境界を消すように扱うものです。この建物の敷地は、セーヌ川流域の草原と果樹園に取り囲まれた芝地です。ル・コルビュジェは「家は、何も妨げずにオブジェのように芝生の上に置かれている」と言っています。

開口部と、車寄せと玄関ファサードのつくる対称性によって、「前方」「後方」の概念が取り払われています。1階部分は2階部分の影に隠れ、ピロティによって地面から切り離された建物を際立たせています。

## 内部の構造

- 1 玄関ホール は北側にあり、その均一な採光が、手すり階段の高みから入る光とコントラストを成します。ル・コルビュジェは玄関の小型円卓をアレンジしています…棚板が構成柱の中に組み込まれ、洗面台がここに置かれました。
- 2 手すり はグレーのリノリウム\*製で、なだらかに2階へと導いています。
- 3 屋上庭園 は邸宅内に光をもたらしています。家の周囲をぐるりと取り囲んでいる窓に続く壁が、景色を切り取るフレームとなっています。
- 4 サンルーム は風除けの壁でデザインされ、その曲線は1階部分の曲線に呼応しています。カメラの絞



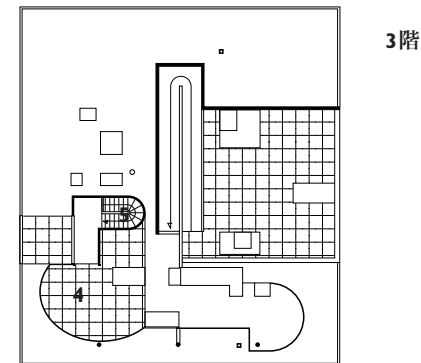
りのように視点を収束する壁の穴を通して、手すりの延長線上にあるセーヌ川流域を眺めるようにデザインされています。

- 5 らせん階段 は地下室まで続き、すき間のない手すりです。

## 生活空間

サヴォア家の生活空間は2階部分にあり、屋上庭園を中心にして配置されています。すべての部屋において、窓の下に置かれたコンクリート製の棚が、アルミニウム製の引き戸の付いたクローゼットを覆っています。

- 6 リビング のガラス窓は、テラス側にあります。夜間には、ニッケルめっきを施したスチール製の長いペンダント（吊り下げ式ランプ）で照らされます。
- 7 キッチン には、収納棚と料理を出し入れする窓が備えられた調理場を通して出入りします。豊富な収納設備とタイル張りの調理台から、このスペースの重要性がうかがえます。
- 8 ゲストルーム は他の寝室と同様に、サヴォア夫人の要望でフローリング張りになっています。天窓で明り取りのされたトイレは、クローゼットで隠されています。
- 9 廊下 は、ひとつの壁の濃い紺青色と天窓採光によって、サヴォア家の息子たちの部屋までの眺めを際立たせています。
- 10 浴室 はゲストと息子たちのもので、二つの入り口から入ることができます。



- 11 息子たちの寝室 は勉強スペースと休息スペースの二つの空間で構成され、クローゼットによって区切られています。
- 12 サヴォア夫妻の寝室 では、クローゼットが入り口を形成し、また浴室との区切りを担っています。左手のグレーの壁には、ベッドを配置するために、2本のピロティでくぼみがつけられています。
- 13 浴室 は、長椅子、布製のカーテン、光の差し込む窓によって演劇舞台のような演出がなされています。
- 14 婦人の居間 は、屋上庭園に面しています。

## 1階

1階は機能的なスペースに当てられ、トイレ、ガレージ、使用人の部屋などがあります。

- 15 ランドリールーム はガラス張りで、方角と明るさによって、まさに温室となっています。
- 16 使用人の部屋 ではサヴォア邸の資料が展示されています。

## 管理人兼庭師の家

この家は、メゾン・ミニマム・ユニファミリアル\*によって建設された唯一の例です。